

授業のスキルアップと教員間の同僚性の向上を目指して

～ 研究授業および授業検討会の取り組みから ～

6月18日(水)、第1回研究授業および授業検討会を実施しました。本校では授業の質の改善と教員の授業力向上を大きな目的とし、4年前から取り組んでいます。授業発表者を各学年から1名選出し、同学年団の他の先生方が参観します。今回は、宮本健史先生(1年E1組/コミュニケーション英語Ⅰ)、佐々木恵理先生(2年A組/コミュニケーション英語Ⅱ)、中野千珠子先生(3年D組/課題研究)の3名の先生方が研究授業を実施してくれました。

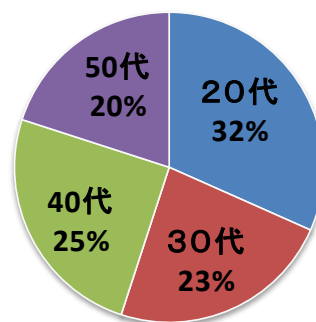
また、研究授業後には全教員で授業検討会を行います。授業参観者を3～4名程度のグループに分け、研究授業について協議を進めていきます。これは、個々の授業力の向上のためではありますが、もう一つ大きな目的があります。それは、教員間の同僚性を高めることです。

本校教員数を年代別に調べてみると、20代の教員数が一番多くの割合を占めています(下記[図①]参考)。本県の教員採用事情を鑑みても、若手教員は増加傾向にあり、本校も例外ではありません。経験豊富なベテラン教員と教職年数の少ない若手教員とが、同じ目標に向かって仕事をすることも日常的なものとなっています。そんな中、少しでも働きやすい職場、居心地の良い職場づくりを目指しています。

今後の予定としましては、2学期に教科別、3学期には第2回学年別研究授業および授業検討会を実施します。

この取り組みがさらにより良いものになるよう研究を重ね、授業のスキルアップと教員間の同僚性の向上を目指していきたいと考えています。

本校教員年代別人数



[図①]

研究授業の様子



授業検討会の様子

